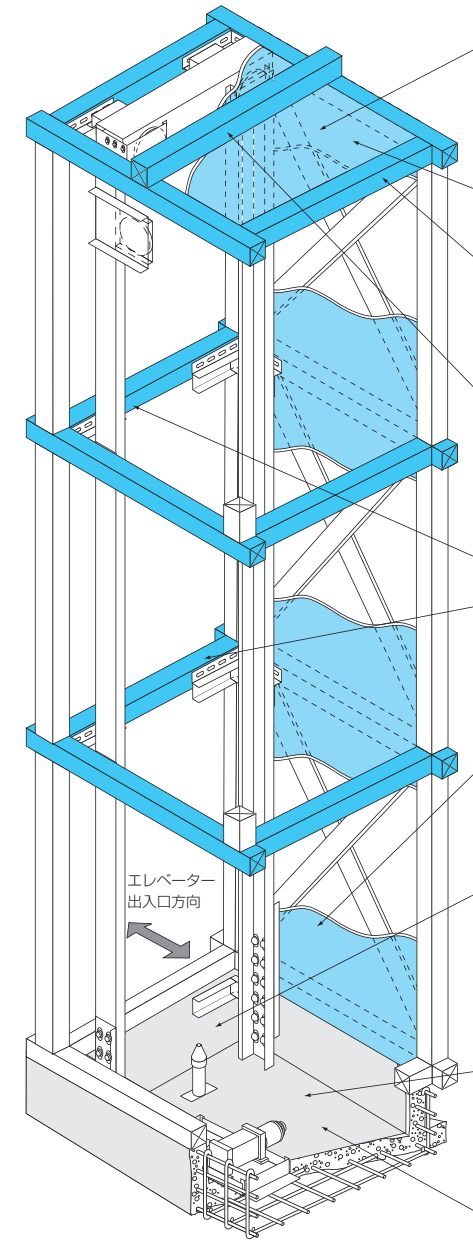


標準断面図

昇降路の構造

グランデ	ファミリー	DXアバンティ	DX 禪
DXファインウッド	ファミロング	コンパクト	モアSプラス
モアSウェルスペース	モアSロング	モアSスタンダード	



警告
 昇降路の壁は任意の5cm²の面にこれと直角な方向の300Nの力が昇降路外から作用した場合において15mmを超える変形が生じず、かつ塑性変形を生じない構造としてください。

警告
 昇降路は、すき間のない構造としてください。

①荷重支持用梁(頂部)(四方向)

荷揚げ用梁(建築工事)
警告
 吊荷重4900N(500kg)に耐える強度としてください。

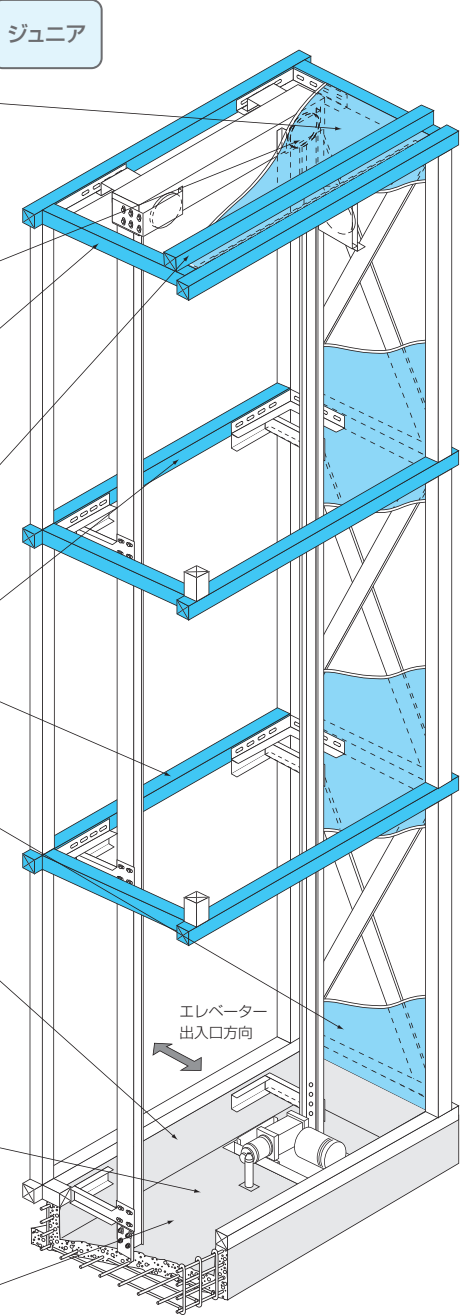
②荷重支持用梁(最上階・中間階)(四方向)

昇降路内はボード貼り仕上げとしてください。

③基礎立上がり部(最下階)
警告
 乗場側厚さ120mm以上の鉄筋入りの基礎立上がりとしてください。

警告
 コンクリート設計基準強度は21N/mm²以上の強度としてください。
 (厚さ200mm以上のシングル配筋のRC床としてください)

警告
 ビット内は換気口や排水口などを設けないでください。



注意
 昇降路の内側に接合金物があると、エレベーターを設置できません。

荷重支持用梁(各階床・頂部)
 火打土台・火打梁など

荷重支持用梁(各階床・頂部)
 羽子板ボルトなど

注意
 荷揚げ用梁を荷重支持用梁と同じ高さには設置しないでください。

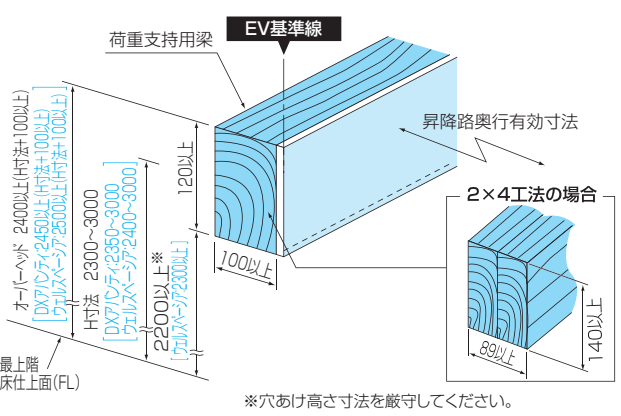
荷揚げ用梁
 開口(300×300)

注意
 荷揚げ用梁の下部にてボード施工する場合

ボードの中心に300×300の開口を用意してください。また、エレベーター据付後に開口を塞ぎますので、ボードなどを支給してください。

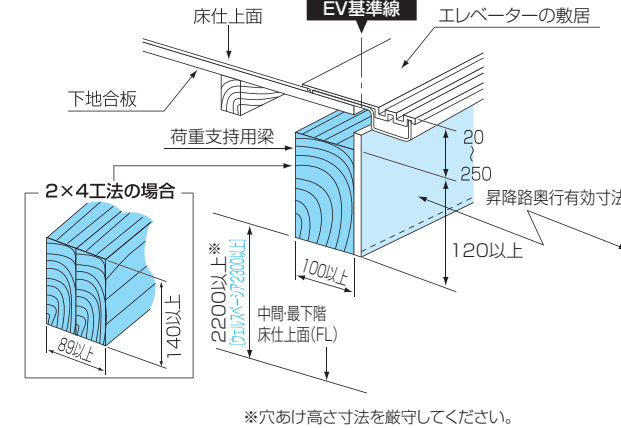
荷重支持用梁(頂部)

- 頂部の荷重支持用梁は、最上階床仕上面から2400~3000mmの範囲内に梁成120mm以上が納まるように設置してください。
- レール固定用ブラケットを設置しますので、必ず四方同じ高さに設置してください。(左図①)



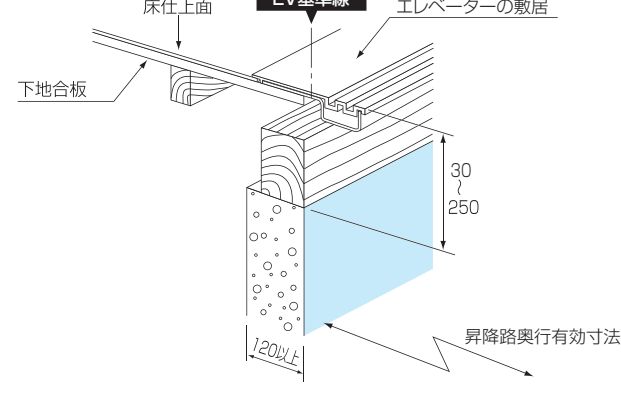
荷重支持用梁(最上階・中間階)

- 最下階を除く各階の荷重支持用梁(床梁)の梁成は120mm以上としてください。
- レール固定用ブラケットを設置しますので、昇降路を囲む荷重支持用梁は必ず四方同じ高さに設置してください。(左図②)
- 乗場機器設置のために、荷重支持用梁上端から床仕上面まで20~250mmの寸法を確保してください。



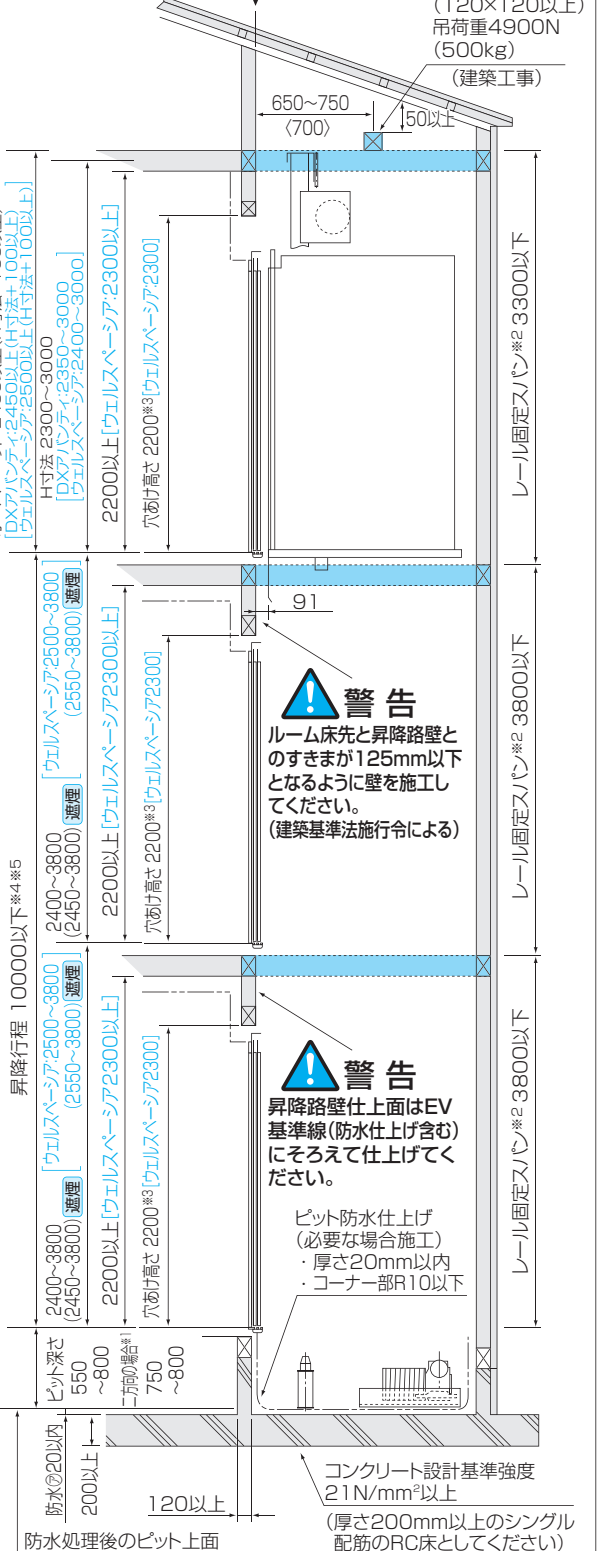
基礎立上がり部(最下階)

- レール固定用ブラケットを設置しますので、厚さ120mm以上の基礎の立上りを設けてください。(左図③)
- また、防水施工の場合は防水面がEV基準線となります。
- 乗場機器設置のために、基礎立上がり天端から床仕上面まで30~250mmの寸法を確保してください。



昇降路断面図

- 適理の値は遮煙乗場ドア適用の場合の寸法を示します。
- ()内の数値は「スイ〜とホームS ジュニア」の寸法を示します。
- 出入口天井高さ100mmUP(オプション)適用の場合は「スイ〜とモアS ウェルスペース」と同一寸法となります。



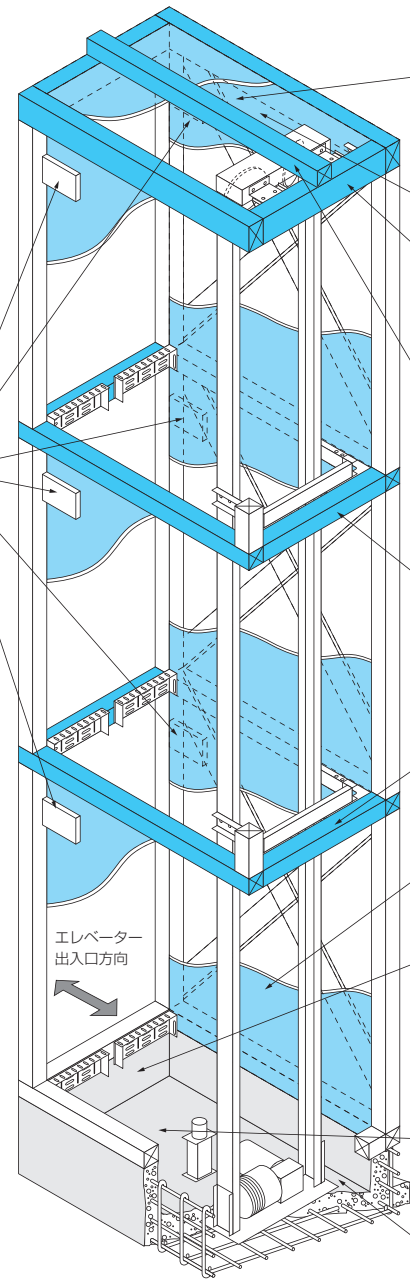
- EV基準線とは、出入口側の昇降路内面を示します。
- 階高指定寸法範囲の上限を超える場合は、中間部に梁を設けてください。
- 参考：1kgf=9.8N

標準断面図

昇降路の構造

ファミスリム

乗場枠固定用下地材 (建築工事)
乗場枠固定用の下地材を昇降路左右の壁に施工してください。(詳しくは14ページを参照ください)



警告
昇降路の壁は任意の5cm²の面にこれと直角な方向の300Nの力が昇降路外から作用した場合において15mmを超える変形が生じず、かつ塑性変形を生じない構造としてください。

警告
昇降路は、すき間のない構造としてください。

① 荷重支持用梁 (頂部) (四方向)

荷揚げ用梁 (建築工事)
警告
吊荷重4900N(500kg)に耐える強度としてください。(昇降路間口の中心に奥側に向けて通してください。)

② 荷重支持用梁 (最上階・中間階) (四方向)

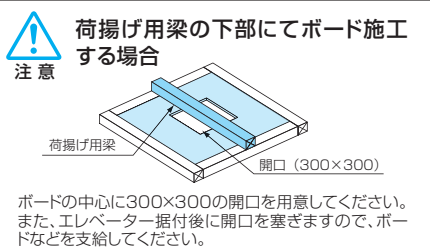
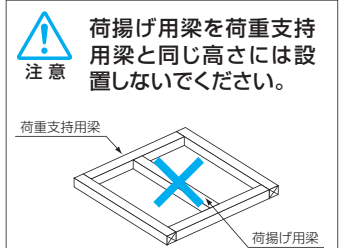
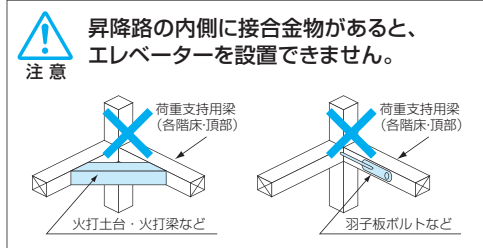
昇降路内はボード貼り仕上げとしてください。

③ 基礎立上がり部 (最下階)

警告
乗場側厚さ120mm以上の鉄筋入りの基礎立上がりとしてください。

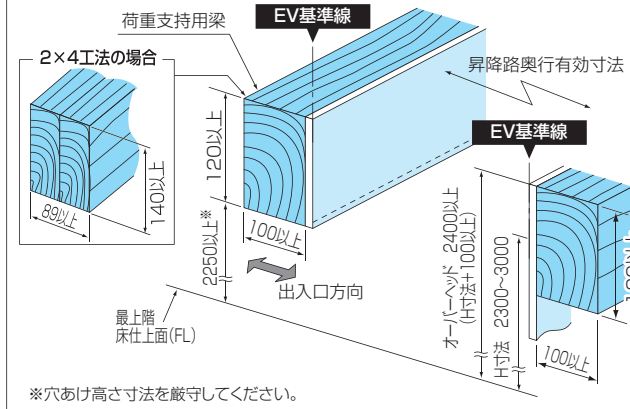
警告
コンクリート設計基準強度は21N/mm²以上の強度としてください。(厚さ200mm以上のシングル配筋のRC床としてください)

警告
ピット内は換気口や排水口などを設けないでください。



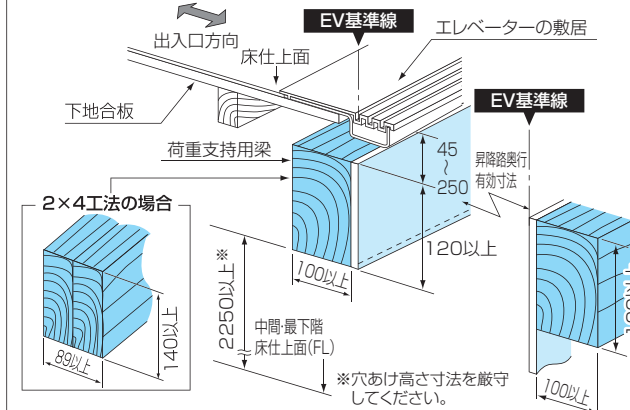
荷重支持用梁 (頂部)

- 頂部の荷重支持用梁は、最上階床仕上面から2400~3000mmの範囲内に梁成120mm以上が納まるように設置してください。
- レール固定用ブラケットを設置しますので、必ず四方同じ高さに設置してください。(左図①)



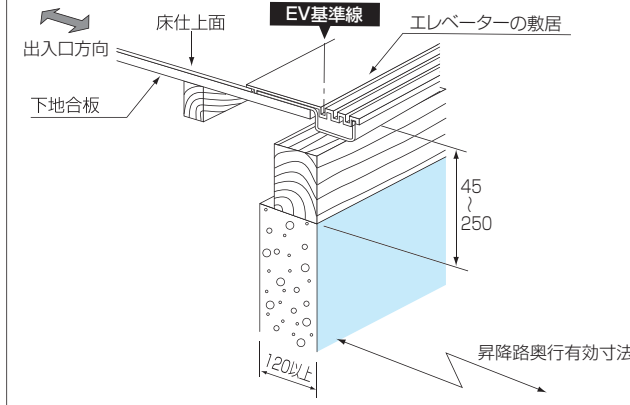
荷重支持用梁 (最上階・中間階)

- 最下階を除く各階の荷重支持用梁(床梁)の梁成は120mm以上としてください。
- レール・乗場固定用ブラケットを設置しますので、昇降路を囲む荷重支持用梁は必ず四方同じ高さに設置してください。(左図②)
- 乗場機器設置のために、荷重支持用梁上端から床仕上面まで45~250mmの寸法を確保してください。

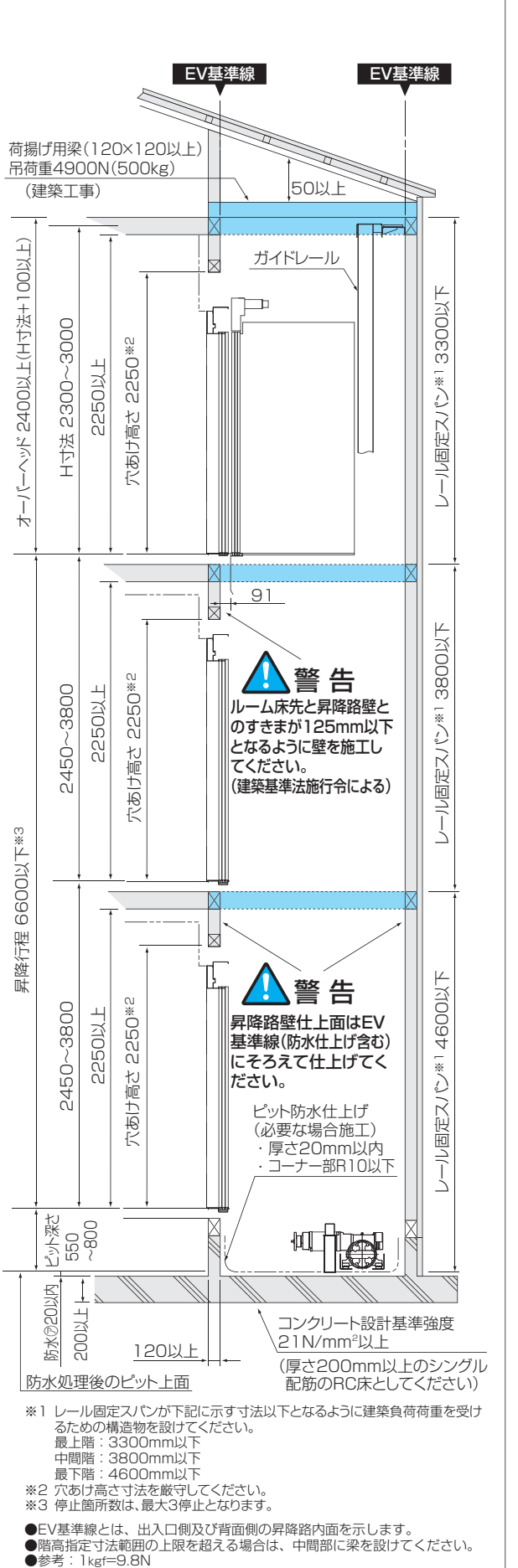


基礎立上がり部 (最下階)

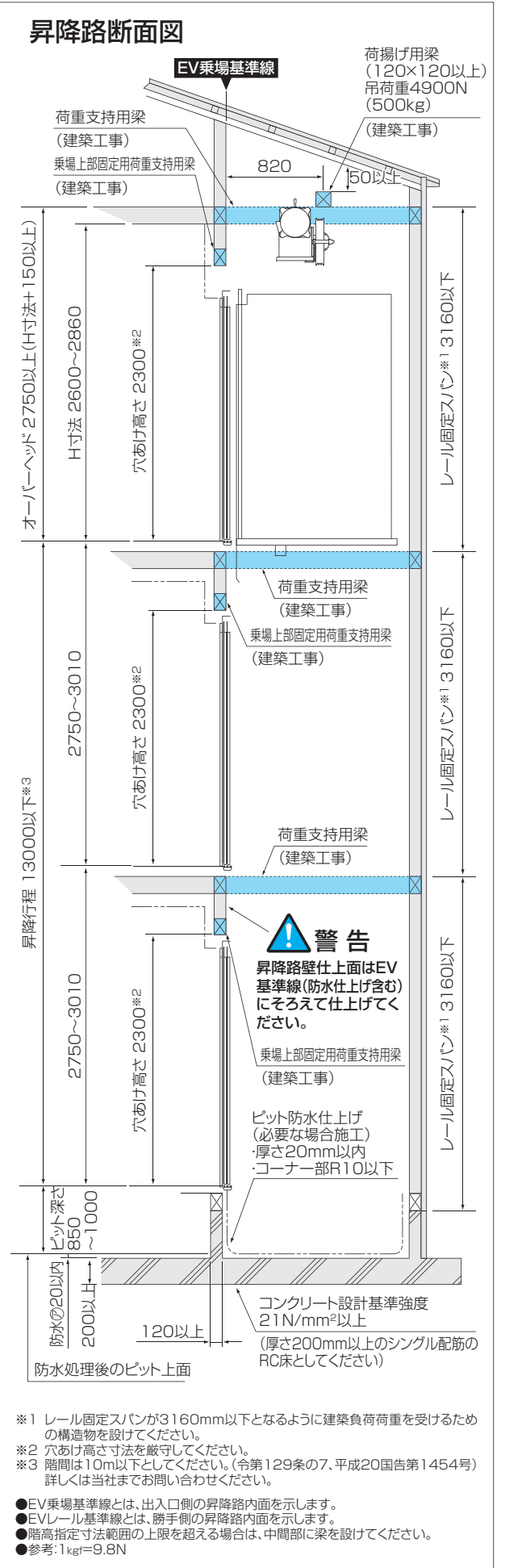
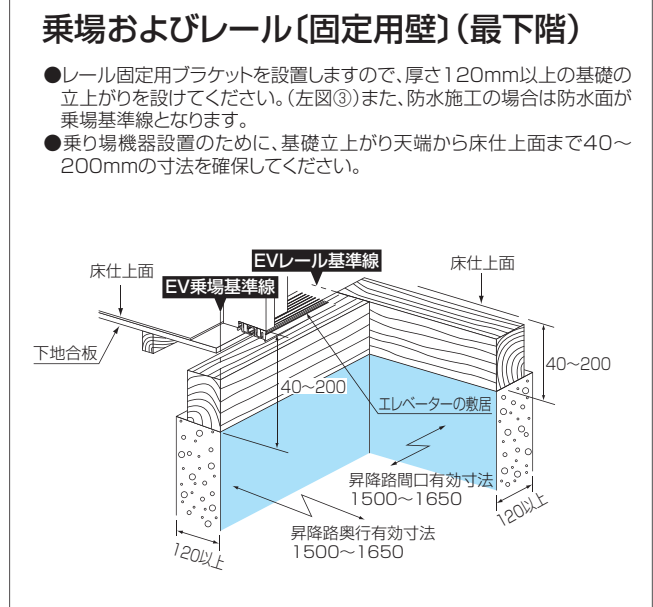
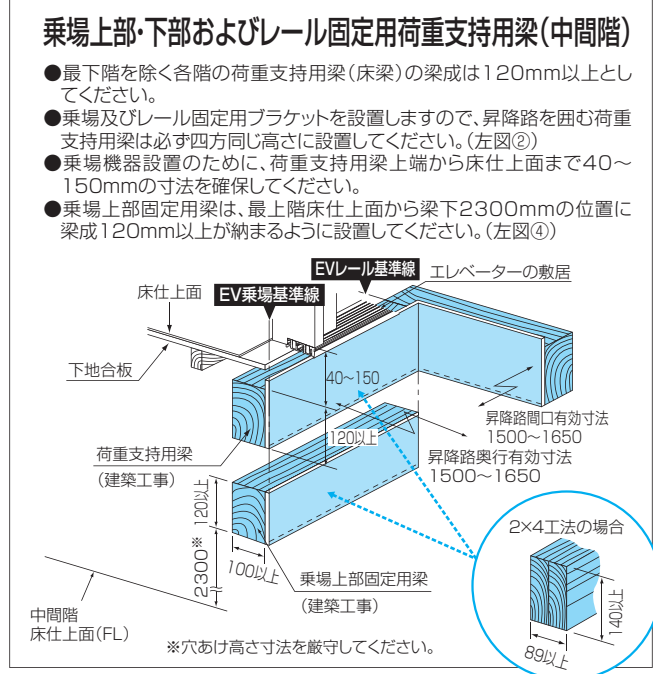
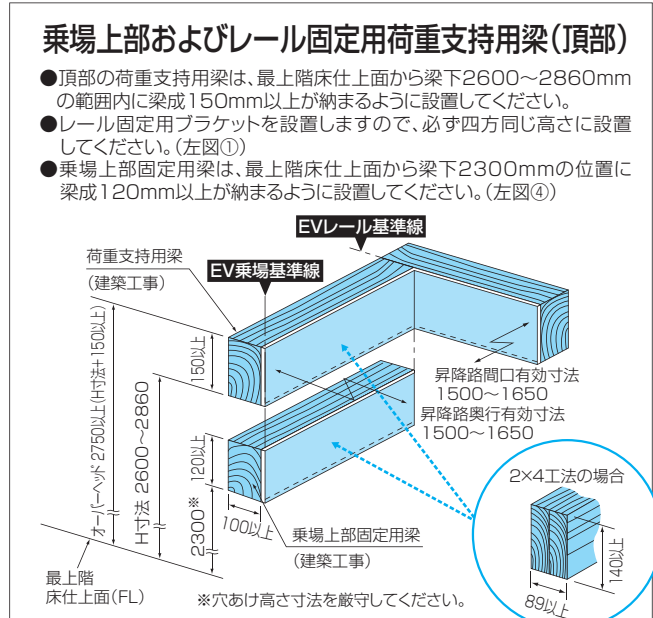
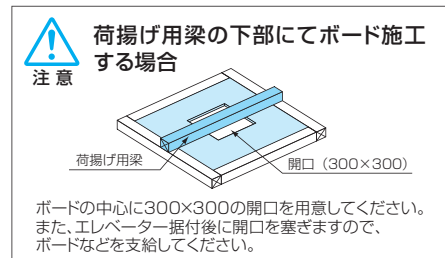
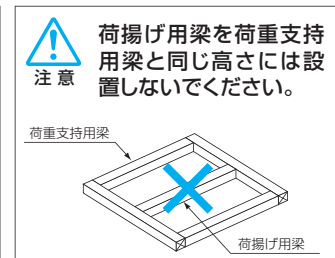
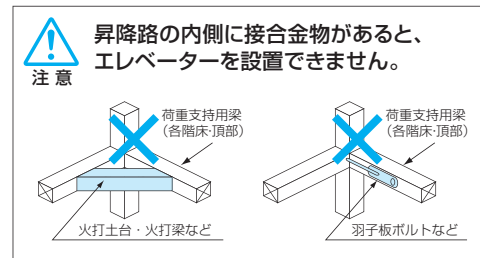
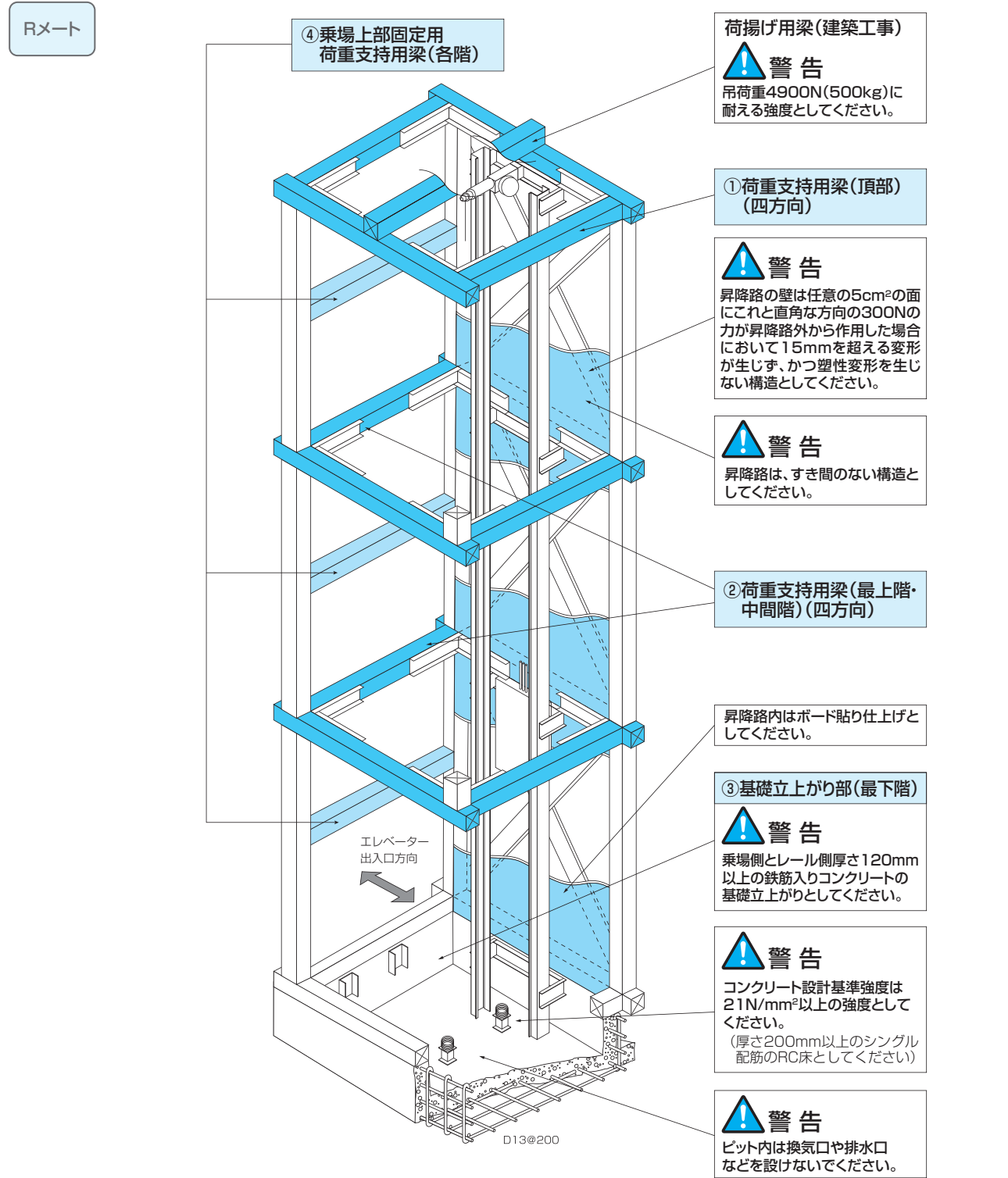
- 乗場固定用ブラケットを設置しますので、厚さ120mm以上の基礎の立上りを設けてください。(左図③)
- また、防水施工の場合は防水面がEV基準線となります。
- 乗場機器設置のために、基礎立上がり天端から床仕上面まで45~250mmの寸法を確保してください。



昇降路断面図

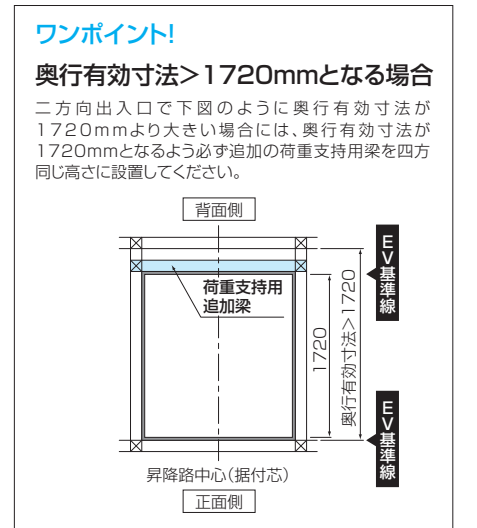
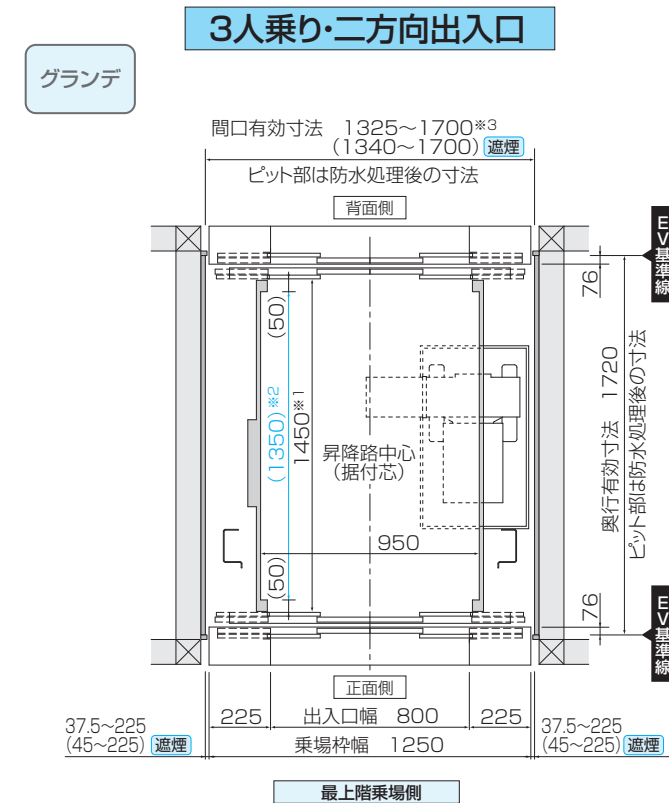
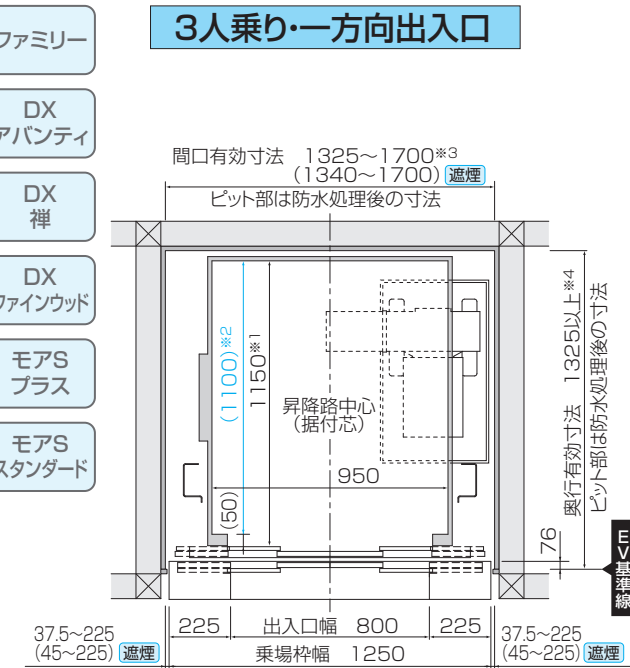
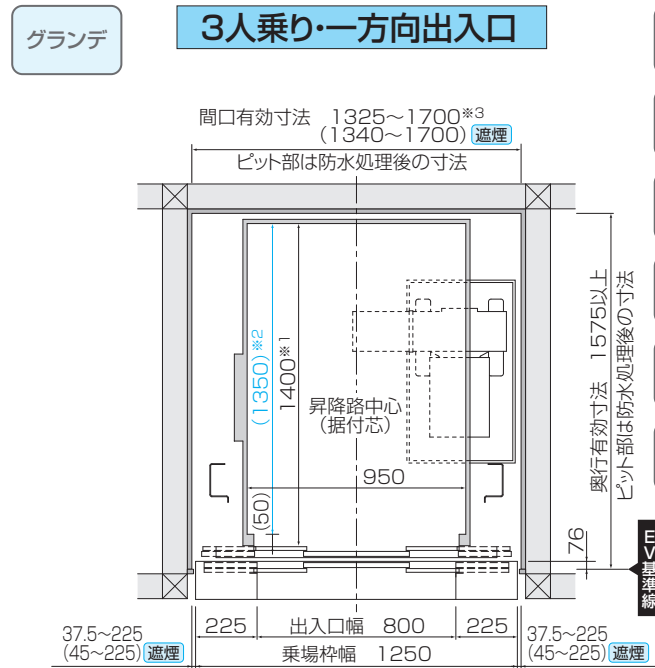


標準断面図 昇降路の構造

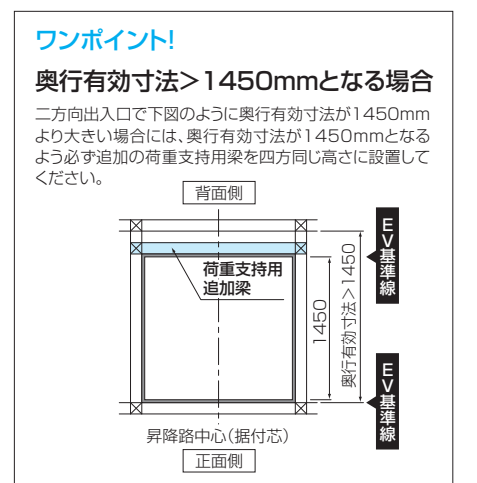
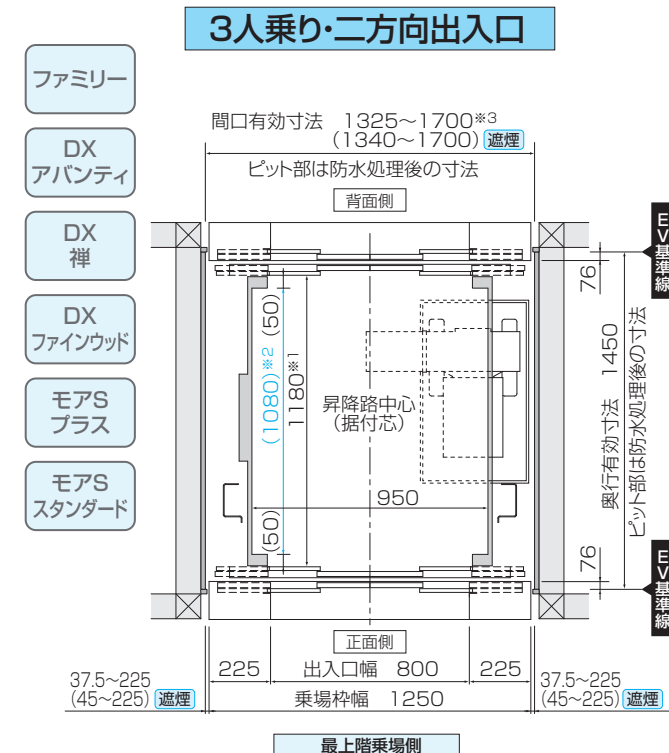
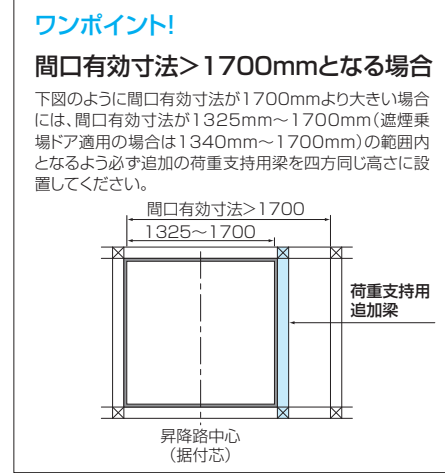
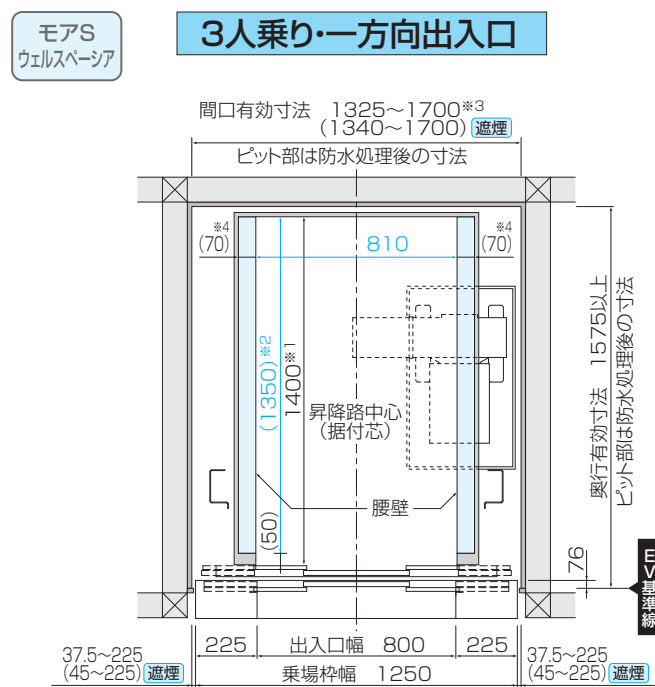


標準平面図 遮煙乗場ドア適用の場合は、一部寸法が異なりますので、詳しくは71〜76ページをご参照ください。 (遮煙)の値は遮煙乗場ドア適用の場合の寸法を示します。

- 下図の昇降路有効寸法を確保してください。
- 電気・電話工事は77〜80、82ページをご参照ください。
- EV基準線、二方向出入口の留意点につきましては11〜14ページをご参照ください。
- 昇降路内はボード貼り仕上げとしてください。
- 地下階がコンクリート造などの建物が複合構造となる場合は、EV基準線や昇降路有効寸法の確保について当社までご相談ください。



- ※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の100mmを除いた1350mmとなります。
- ※2 記載の値は、踏込部(センサー感知部分)を除いた奥行有効寸法です。
- ※3 間口有効寸法最大の1700mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。

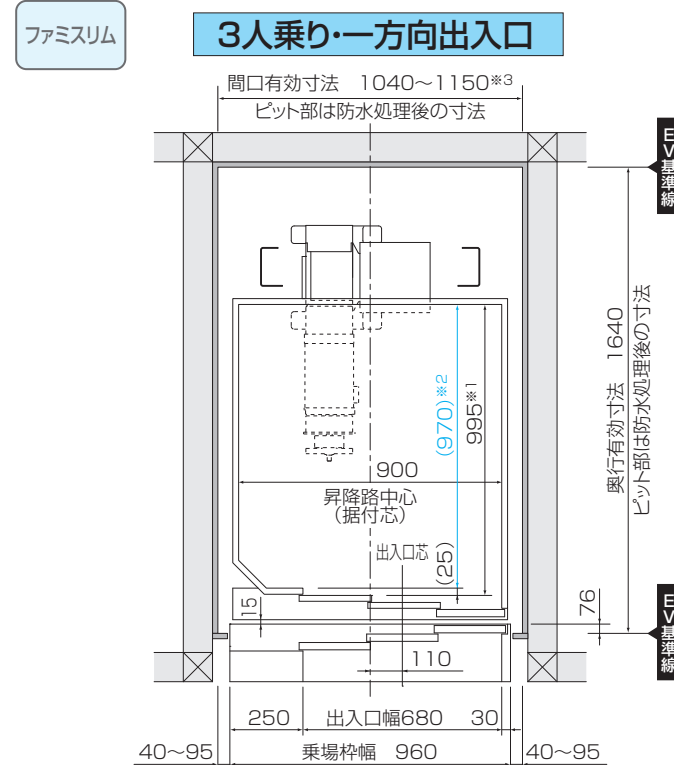


- ※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の100mmを除いた1080mmとなります。
- ※2 記載の値は、踏込部(センサー感知部分)を除いた奥行有効寸法です。
- ※3 間口有効寸法最大の1700mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。

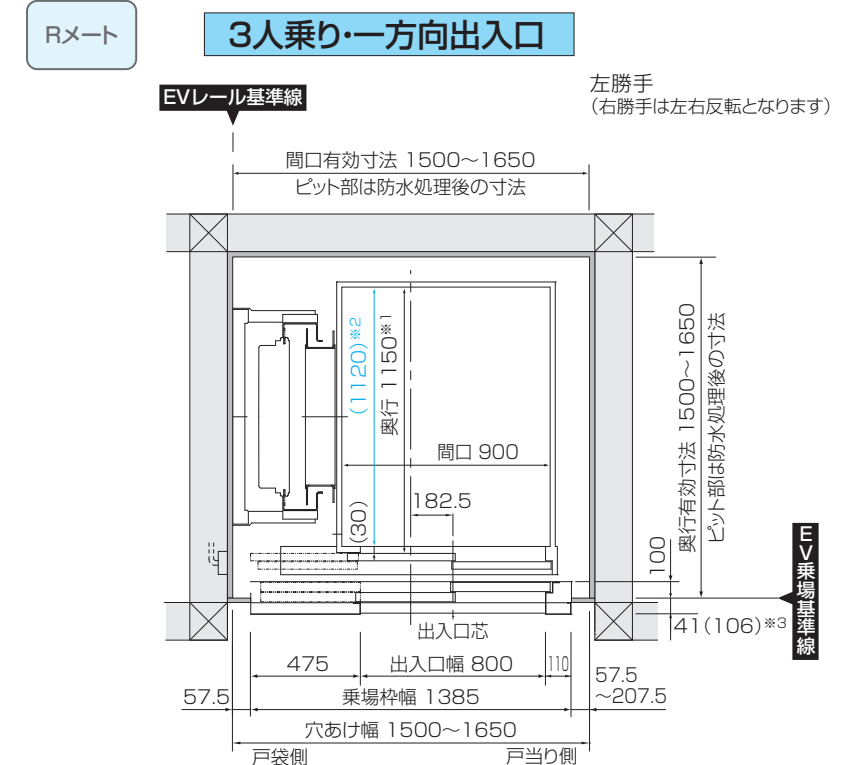
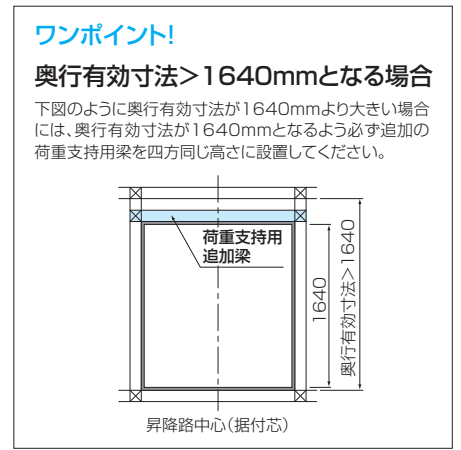
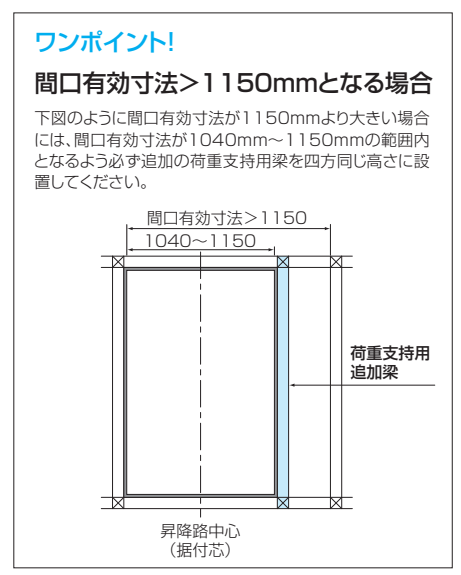
- ※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、記載の値から踏込部の50mmを除いた1350mmとなります。
- ※2 記載の値は、踏込部(センサー感知部分)を除いた奥行有効寸法です。
- ※3 間口有効寸法最大の1700mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。
- ※4 記載の値は、腰壁から壁面までの寸法です。

標準平面図

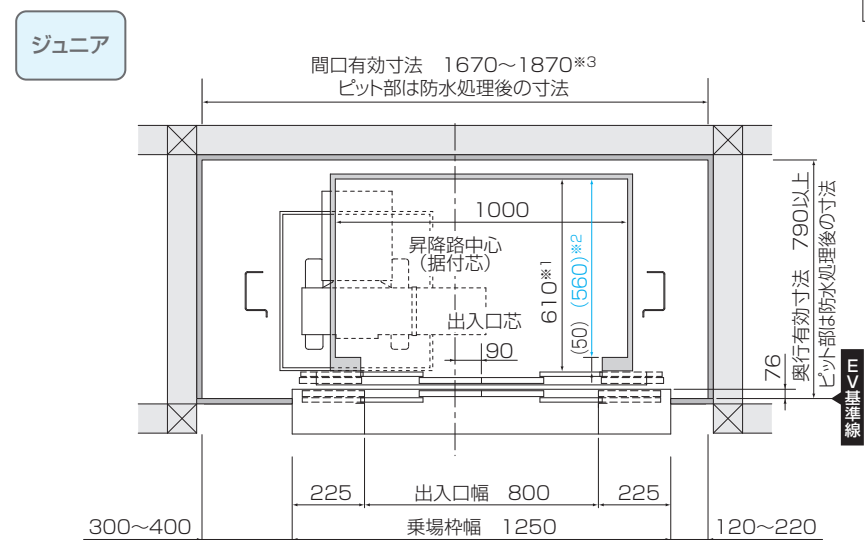
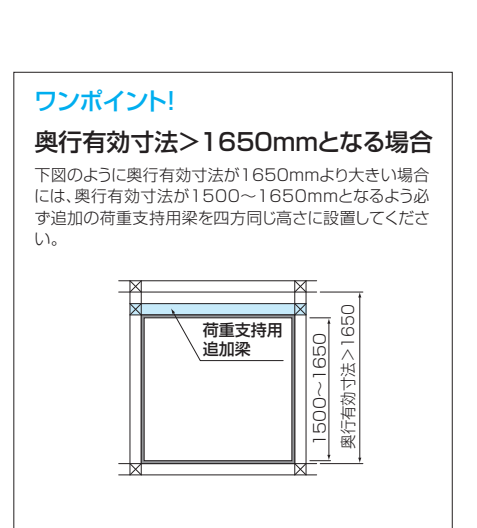
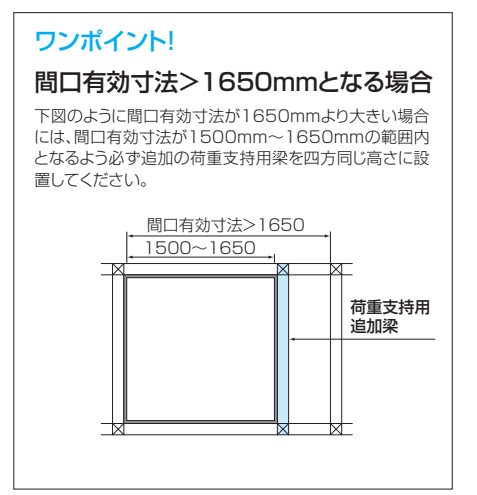
- 下図の昇降路有効寸法を確保してください。
- 電気・電話工事は77～82ページをご参照ください。
- EV基準線の留意点につきましては11、15ページをご参照ください。
- 昇降路内はボード貼り仕上げとしてください。
- 地下階がコンクリート造などの建物が複合構造となる場合は、EV基準線や昇降路有効寸法の確保について当社までご相談ください。



※1 確認申請及び建築基準法による床面積計算時のルーム奥行有効寸法は、踏込部の25mmを除いた970mmとなります。
 ※2 記載の値は、踏込部を除いた奥行有効寸法です。
 ※3 間口有効寸法最大の1150mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。



※1 確認申請および建築基準法による床面積計算時のルーム奥行寸法は、踏込部の30mmを除いた1120mmとなります。
 ※2 記載の値は、踏込部を除いた奥行有効寸法となります。
 ※3 ()内の数値は最上階を示します。



※1 確認申請及び建築基準法による、床面積計算時のルーム奥行寸法は、踏込部の50mmを除いた560mmとなります。
 ※2 記載の値は、踏込部(センサー感知部分)を除いた奥行有効寸法です。
 ※3 間口有効寸法最大の1870mmの場合、有効寸法の中心が据付芯となります。

